

## 〈事例報告〉カシノナガキクイムシの防除事例

株式会社三商 本社緑化部 小谷和之（東京都在住）

### 1. はじめに

関東地方では数年前からカシノナガキクイムシ（以下、カシナガと表記）による加害が発生し、昨年は多くの加害された樹を見た。加害された樹は、特に首都圏ではコナラが多く、次にマテバシイが多かった。当社は、農薬メーカーの特約店で農薬・資材の販売を行っている。また、現場施工も行っており、カシナガの防除薬剤や資材の問い合わせが急増した。そこで、ここではカシナガ被害の現場の状況や防除方法を幾つか紹介する。

### 2. 防除（駆除）事例

#### 1) 東京都23区 自治体A

【都市公園：約112,000m<sup>2</sup>】

昨年8月に区内造園会社及び区緑地担当職員から問い合わせがあり現地確認を行う。コナラが加害され枯れも数本あった。枯れたコナラは伐倒し、健全なコナラは、樹幹注入剤を採用。現地で区職員に講習会を行った。樹幹注入剤は、区内造園会社を元請けとし当社で施工した。施工本数は、コナラ56本で薬量は476.5ml。

#### 2) 神奈川県 自治体B

【総合公園：約193,000m<sup>2</sup>】

指定管理者の造園会社から問い合わせがあり、現地調査を行う。加害は、一昨年にコナラが加害され、昨年からはマテバシイも加害される。また、指定管理者の従業員と市の関係者へカシナガと防除



写真1 粘着ネット

方法の講習会を開催。公園利用者が多いことから農薬使用はNG。しかし、樹幹注入剤は可能で施工する。樹幹注入剤の施工は、マテバシイが23本、コナラが46本で薬剂量は、288ml。そのほかに枯れは、コナラが11本、マテバシイが13本。

枯れた樹は、伐倒し粘着ネットを置いてビニールシートで覆い成虫を捕獲する方法を採用した。

#### 3) 神奈川県 自治体C

【都市公園：約435,000m<sup>2</sup>】

公園内の自然林での枯れ。コナラが数本の枯れと穿入生存木が数本。また、シラカシへの加害もあり。運動施設

（野球場やサッカー場など）があり、多くの公園利用者が訪れることから今後の倒木と落枝による被害を気にする。枯れたコナラは伐倒くん蒸を行った。また、穿



写真2 被覆剤（左）と粘着シート（右）

入生存木のコナラには被覆剤の噴霧と粘着シートを巻いた。樹幹注入剤は、シラカシ1本に施工した。いずれも試験施工であり、経過観察中である。

#### 4) 神奈川県 自治体D

【特別緑地保全地区 約11,000m<sup>2</sup>】

小高い丘、ホテルのいる小川があり、里山のような場所。コナラが多く昨年に枯れが目立ち今春までに伐倒くん蒸を行った（継続作業中）。敷地境界沿いは、民家があり枯れたコナラの処理と今後枯らさないようにすることが課題になっている。

また、昨年枯れたように見えた（枯れていたはず？）コナラが、3月になり新葉が展開してきている。昨年



写真3 くん蒸状況

9月頃に現場で確認し、枯れの判断をしているのだが。判断は慎重にしなければならない。